

## 総会インタビュー

会誌・名簿 G 篠原 才司 (平6年物工卒)

去る平成19年6月30日、横浜国立大学化学系OB会の念願であった、第1回目の統合国大化学会総会及び懇親会が、崎陽軒横浜本店で盛大に開催されました。今回は総会後に行われました懇親会にご出席されたOBの方々に感想や抱負をインタビューしましたのでその内容についてお伝えしようと思います。

### Aさん 昭和42年卒(応化)

やっと、同窓会に根っこが生えてよかったと感じている。研究室の同窓会のように出席率を上げていきたいと感じています。

### Bさん 昭和42年卒(応化)

11月のホームカミングデーを楽しみにしています。

### Cさん 昭和47年卒(電化)

私が入学した当時は、学生紛争の真っ最中。学校封鎖に見舞われたり、それが解除されるやいなや、卒業まで休みなしで目もふらずな一てことも経験した。私は3月に卒業できたが、ひとつ上は4月卒という、とんでもない時代でした。今の大学の風景は隔世の感がある。今後ともOB会の発展に期待しています。

### 昭和35年卒4人グループ(応化)

3同窓会を集めれば、総数は大変な数になると思う。今回の出席者数は130人ということで、正直危機感を感じているなあ。いやいや、同窓会なんてそんなに集まるものじゃないですよ。でもね、学校ごとにカラーがあると思うんですよ。たとえば慶応とかは非常に集まりがいいんですよ。学生と若い卒業生と先生方の力を結集していけば、共通のメリットが生まれると思いますよ。それぞれの立場で考え、何とかこの同窓会を盛り上げていきたいですね。

### 昭和40年卒4人グループ(応化)

大学が置かれている状況とか、いろいろ情報が伝わってはくるけど内容があんまり分からないなあ。若い人がいろいろと心に思っていることをどんどん発信していくことによって、われわれOBができること・すべきことが見えてくるんですよ。われわれはいい意味で暇なんで

す。どういう風に役に立っていいか分からないでもいるんです。われわれが学生の頃は、OBにホテルとかに招待してもらってご馳走してもらったりとかしたもんです。その中で有用な情報交換ができたのを覚えています。学業界では国大の活躍を今でもよく聞くけど、実業界ではこのごろそういう話を耳にしなくなったような気がする。また、最近は国大のレベルがダウンした気がする。教育の仕方によって力を引き出せるんじゃないかな。あと、国大生は、もっと力を持っていると思うんです。学生はもっと自信もっていいんだと思うんだよね。大学院に行く人も少なくなってきているしねえ。企業も、先生方もどんどん忙しくなっているのも現実だけど、これからの若い人の力を伸ばしてやる努力を惜しまずにやっていくことが必要だと思うんだよねえ。学生さんもそのアプローチを自分の糧にしていってほしいなあ。

### Dさん 博士課程後期3年

今日ここに来て、いい先輩に会うことができ良かったなと思います。わたしもがんばっていいこうという気持ちに改めてなりました。卒業まで後半年ぐらいとなって、社会に出た後の感想などを皆さんに聞きたいと思っています。

### Eさん 平成3年卒(電化)

若い世代をいかに取り込んでいけるかが最大の課題ですね。これからのOB会では、行ってみたい、参加したいという興味を持たせるかが大事だと思います。研究室のOB会の参加率は高いので、そこを突破口にして、リンクした形での参加を呼びかけるとか、いろいろなアピールの仕方があるのではないかなと思うんです。研究室OB会をホームページに発信するとか、ネットを有効に活用するのも有用ではないでしょうかねえ。

皆さん、早くインタビューに応じていただきありがとうございました。今回の統合記念の懇親会では、3会統合のメリットをどのように今後のOB会発展につなげていくのかという点に、希望や不安の言動が多く寄せられました。この率直な意見をさまざまな場面で生かすべく、企画を練っていったらと、心から感じたインタビュー現場でした。